

ママサポートえぷろん 《第 62 号》

ぽけっと

発行 2014年 12月 20日
編集 特定非営利活動法人
ママサポートえぷろん事務局
発行責任者 帯谷 昭子

活動の様子 ～生活サポートでのひらより～

管理者 藤原 孝子

生活サポートでのひらでは、地域生活支援事業を行っています。内容は通所サービスの「日中一時支援」と、余暇活動や社会的移動を行う「移動支援」があります。具体的には、ぼのぼの（自立支援ハウス）のスペースを借りて調理・手芸等を行ったり、健康を維持するための活動として、体操や温水プールでの水中歩行に取り組んでいる方もいます。中でも一番人気を集めている活動が料理教室です。料理を覚えたいということから始まった活動で、回を進めていくうちに、かなり評判になり、今ではお菓子からおかずまで幅広いメニューに取り組んでいます。

ある利用者さんは、半年間リハビリを一度も休みなく頑張り続けました。その結果、心身ともにとても元気になられ「余暇活動」に参加することができました。その時の余暇活動は…。なんと大好きな歌手のDVD鑑賞会！短時間ではありましたが、皆で大いに楽しみ、とても素敵なひとときとなりました。半年間の頑張りを応援してきた私達も、あの笑顔で胸があっただか〜くなりました。このような活動を通して、利用者さんからいただく笑顔と感謝の言葉。それらはスタッフにとって、何よりの原動力となっています。



健康のために頑張っていますー！！



クリスマスに向けての
作品づくり♥

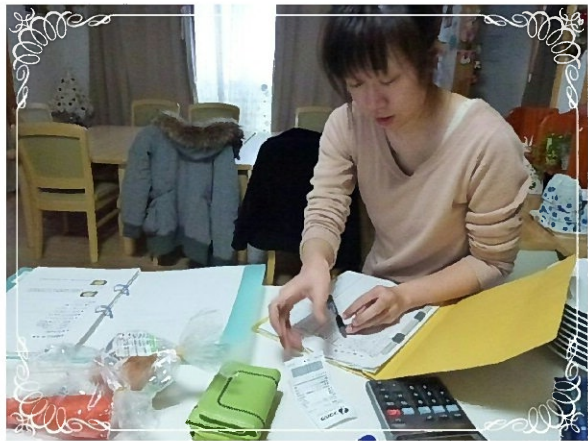




大好きな歌手、
Kちゃん応援隊です♥



料理のレパートリー
も増えています(^)



※掲載画像は、すべてご本人の承諾を得ています。



季節は冬となり、寒さが厳しくなってきた今日この頃。「インフルエンザ」の予防接種も始まり、「風邪」には十分に気を付けなければいけませんね。今回はこの「ぼけっと」をご愛読されている方々は、「福祉」に携わっている人が多いことから、現場職でもある「介護福祉士」にスポットをあてた話をしたいと思います。

私が「グループホームうらら花」に職員として誘って頂いたのも、この時期くらいだったでしょうか。当時は「介護福祉士」の先駆けで、「介護の資格」というくらいにしか認識されておらず、求人先の半分以上が「老人ホーム」だったと思います。しかし、それから数年で「専門職」として浸透し、現在では「介護福祉士」という職種は「老人ホーム」のみならず、「老人保健施設」や「病院」、「障がい者施設」など、活躍できる場が整備されてきました。何かと重宝されやすいから…？とも考えられますが、言い換えれば、「柔軟性を持った職種」なのではないだろうか？私は十年ほど「介護福祉士」として働いてきましたが、未だに修行中だと思っています。なぜならば、私が「サービス」を提供しなければならない利用者は皆、「人格」「生活歴」「感情」が一人ひとり違い「接する空間」…例えば、時間や場所、感情が動いている時などによっても、掛ける言葉や介助方法も、利用者に寄り添った柔軟な対応をとっていかねばなりません。さらに、この仕事には「正解」はありません。しかし、「参考書」と「ヒント」は利用者がくれます。「アセスメント」だけで「利用者」を知った気になることは簡単ですが、それは、その人の何割にあたるのでしょうか？

介護の現場では利用者に対し「～してあげたのに」などの話を耳にすることが多々ありますが、これは発言者に問題があると感じます。これは「利用者主体」を飾りに「支援者が主体」になってしまっています。これでは利用者の気持ちを汲むのは難しいですね。支援者に必要な要素は、「相手の気持ちを汲み取る力」「不安を与えない言葉」「臨機応変な行動力」だと思います。この3つの共通点は「常に利用者の視点で接する」こと。私は、この姿勢が「介護福祉士」としての「プロ意識」なのだと思っていますが、言葉にするのは簡単なことで、実際に支援者側に立ってみると、毎度その難しさに痛感させられます。介護の仕事は、身体介護がメインと考えられがちですが、現場では「目に見えない支援（メンタルケア）」の方が圧倒的に多いことでしょう。しかし、他者からは理解されにくいとため、評価されにくいのが現状です。

私が「うらら花」で学んだことの一つに「チームケア」があります。同じ業務をしている者同士で話し合うことで、「意識統一」を図り、チームとして理解を深めていくことで「質の向上」に繋がっていくと考えています。



ママサポートえぶろん各事業所の様子を、ブログにて定期的に綴っています！是非ご覧くださいませ。

<http://ameblo.jp/mama-support-apron/>



click!

いろは坂

冷や汗

「弁当から歯」起き抜けに開いた新聞のページに、とんでもない見出しを見つけ、目を疑った。

どうして弁当に歯が入っているの？誰の歯なの？総入れ歯？差し歯？実際に歯を治療中だった私は、頭の中が疑問符でいっぱいになった。

深呼吸して気持ちを落ち着かせる。改めて読んでみると、「歯」と見えたのは、「菌」だった。「なーんだ、菌か。それなら有り得るな」と、少し安心する。菌もありがたくはないが、歯よりはいい。

最近、読み違えてびっくりすることが多いが、書き間違えることも、よくある。

「広井さん、僕のこと嫌いなんですかあ」というハガキが届いたことがある。彼は、鎌田さんという。折にふれて季節の絵手紙を送ってくれるので、私もときどきハガキを出す。

広井 数子

どうやら私は、「嫌田さん、いつも素敵なお絵をありがとごさいます」と書いてしまったらしい。

顔が熱くなった。すぐに、「すみません。とても好きですよ」と謝ったが、これも、誤解される文だったろうか。

友人に、「私、この前、急救車で病院に運ばれてしまったさ」と、すごい体験を自慢げにメールした。

その後、ふと気になって辞書をひくと、「救急車」が正しかった。「ごめん、救と急が反対だった」と連絡したら、「気がついてたよ」と言われて、肩が落ちた。

自分が知らないところで、これまでどれだけ笑われてきたことか。考えるだけで、どっと冷や汗が出る。



年末年始休業のお知らせ

下記の通り休みとなります。ご迷惑をお掛けしますが、よろしくお願い申し上げます。

- 生活サポートてのひら
- デイホームひなたぼっこ
- MELLOW倶楽部あ・笑～る

休業日 平成26年12月30日(火)

）

平成27年 1月 5日(月)

休業中の連絡先 090-8275-3138 (法人事務局)

NPO 法人

ママサポートえぶろん

会 員 数

- ・個人会員 34人
- ・利用会員 21人
- ・賛助会員 67人

平成26年12月20日現在

特定非営利活動法人

(NPO)ママサポートえぶろんは民間非営利活動団体です。

会員の皆様の会費と寄付により運営しております。

皆様の支援をよろしくお願いいたします。